

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年10月17日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4676000088号		
法人名	医療法人 財団 浩誠会		
事業所名	グループホーム ゆめ		
所在地	鹿児島県 霧島市 霧島田口 2143番地 (電話) 0995-57-2077		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年10月13日	評価確定日	平成21年11月7日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは霧島の山々や桜島が望める、温泉地の自然環境に恵まれたところにある。隣接して協力医療機関や関連施設があり、充実した医療連携体制やリハビリを受けることができる。職員は「寄り添う介護」を目標に、入居者の「その人らしく生きる」を尊重し、温泉入浴・美味しい食事を提供し、ゆっくりと安心した暮らしを支えている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	災害時の備蓄については、必要な備品や食料等を準備し、改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員が評価の意義を理解し、できていない点やこれから取り組むべき点を話し合い、評価をサービス向上に活かそうと取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を開催することで、地域住民との意思疎通が図られ、地域の情報や協力が得られるようになりサービス向上に繋がっている。今後、多くの意見を引き出す為に、家族の会議への参加を呼びかけている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	入居時の苦情・相談窓口の説明や面会時に意見や要望を聞くよう心がけている。誕生会や行事への参加、運営推進会議での意見を表す機会など工夫している。意見を受けたら全職員で話し合い、運営に反映させるよう取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の運動会や文化祭に参加している。地域の小・中・高校生のボランティア活動の受け入れなど、地域住民との交流に努めている。

【情報提供票より】(21年9月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 10月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤15人	非常勤 0人 常勤換算15人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建コロニアル葺		
	1階建ての ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,200 円	その他の経費(月額)	315 円	
敷金	有() 円 ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	210 円	昼食	315 円
	夕食	420 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(9月10日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	2名	要介護2	6名		
要介護3	7名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.3歳	最低	66歳	最高	89歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	霧島杉安病院・宮内皮ふ科クリニック・中村歯科医院
---------	--------------------------

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとして、地域住民と共に「その人らしく生きる」の、法人理念を基に、事業所独自に「寄り添う介護」を目標として、入居者を支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の全体会議で理念について話し合い、年間目標を確認し、理念や目標を意識して日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の体育祭や文化祭に参加している。地域の小・中・高校生のボランティア活動を受け入れ、入居者との交流を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員に用紙を配布し、できていない事や改善点を話し合い、自己評価を活かしてサービスの質向上に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は多くの委員の参加を得て、ホームの活動内容・問題点を話し合い、そこでの情報や意見を運営やサービス向上に活かしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者に運営や入居者の状況について、電話や訪問して相談するなど連携を図り、サービス向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時に暮らしぶりや健康状態などを報告している。年4回ゆめ便りを発行し、行事の様子や職員紹介など、写真を掲載し報告している。金銭預かり帳で報告し確認サインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に苦情・相談窓口について説明し、運営推進会議にも家族代表に参加してもらい、意見や要望を聞き、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は最小限にとどめるようにしている。また新規採用時には新人研修の計画に沿って行い、異動や離職の影響に配慮し、入居者のダメージを防ぐように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人やホーム内の研修を計画的に実施したり、グループホーム連絡協議会への事例発表など積極的に行っている。資格取得も積極的に勧め、職員育成に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域や県の連絡協議会の研修や講演会などに参加し、情報交換などを行っている。今後、近隣のホームとの相互訪問など検討している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者に自宅訪問を行い、思いや意向を聞いている。またホーム見学を勧めて、入居者や職員と一緒に、お茶を飲んだり、レクリエーションなどを行い、ホームの雰囲気に徐々に馴染んでもらうよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理を一緒に行い、入居者に昔の料理法や味付けなど教えてもらっている。本人の知識やできる事、能力の活用を視点に置いたケアを実践し、支えあう関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人・家族から生活歴や今までの暮らし振りを聞き、支援に活かしている。また毎日の生活の中で思いや希望を把握し、本人本位に検討するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族からの意向や希望を聞き、関係者からの情報など参考にして、職員全員で話し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護保険更新や計画の期間に応じて、関係者とカンファレンスを実施し、評価を行い、現状に即した新たな介護計画を作成している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制による健康管理や併設病院でのリハビリ、通院介助など家族と相談しながら柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診を支援している。協力医療機関からの入居者が多く、本人・家族の同意を得て、主治医による定期的な受診や健康診断等の支援もしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制があり入居時に方針を説明し、同意を得ている。医療が必要な状態になった場合は、主治医・家族と相談し方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員に個人情報保護について誓約書を求めている。言葉使いや対応なども日頃より指導し、プライバシーの確保の徹底に取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	パーソンセンタードケアを心がけ、入居者のその日の健康状態や変化を把握し、希望を取り入れたその人らしい暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望や意向を取り入れた献立で、配膳や下膳など、できる事は手伝ってもらい、楽しく食事をしている。誕生日の特別メニューや外食など楽しめる食事も取り入れている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	天然温泉なので、いつでも入浴できる。時間等気にせずリラックスして入れるよう、希望やタイミングを合わせて支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	玄関掃除やテーブル拭き・モップがけ等、できる事を一緒に行い、歌や作品作りなどの楽しみごとや、神社・お寺参り・季節の花見などを計画し、気晴らしの支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や健康状態を見ながら、散歩や買い物・ドライブなどに出かけている。協力医療機関のリハビリに出かけたり・併設施設での催しものなどの外出支援もしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	無断外出する入居者がいるが、職員間で所在確認の連携を密にして、中庭を活用したりしながら、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署と協力し、避難訓練や消火訓練を行っている。災害に備えた備品や食糧も用意している。地域住民の協力については、運営推進会議でも話し合い、働きかけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量はチェックし記録している。水分量も必要な分、確保するよう配慮している。献立の内容を協力医療機関の栄養士にチェックしてもらいアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に季節の花が生けてあり、台所・食堂・居間・畳のコーナーはワンフロアで広く、窓も大きく明るい。中庭は芝生にベンチが置かれ景色を眺め季節が感じられる。居心地のよい共用空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が使い慣れた家具や時計・人形・写真・手作りの作品を飾り、自分の部屋として、居心地よく過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。